

浅草で東京諸島を応援するプロモーション

—「松屋浅草」に初の限定アンテナショップ

(株)文伸

外国人観光客でにぎわう東京・浅草を舞台に、株式会社文伸(川井伸夫社長、本社・東京都三鷹市)は、東京諸島を応援するプロモーションを展開した。この事業は東京都商工会連合会の委託を受け、同社が運営を担当したもので、浅草の老舗百貨店「松屋浅草」に12月17日から25日までの期間限定で「東京諸島アンテナショップ」を開設し、特産品を販売。さらに、雷門前の「浅草文化観光センター」では、東京諸島にちなんだパネル展やワークショップなど関連イベントを展開し、島の魅力を広く発信した。

▶ インバウンドも視野に、島の魅力を発信

東京都には、伊豆諸島(大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島)と小笠原諸島(父島、母島)に計11の島があり、総称して「東京諸島」と呼ばれる。

そもそも、この東京諸島アンテナショップは新型コロナウイルス禍の2020年、東京諸島への来島者の激

減や島内外での物産展・イベントなどの中止によって経済的に打撃を受けた島嶼エリア(東京諸島)の小規模事業者などの販路支援を目的にスタート。武蔵野市吉祥寺に初出店以降、小金井市や昭島市など多摩エリアで展開し、好評を得てきた。直前に町田市で開いたアンテナショップでも11月28日から12月14日までの17日間で約2,000人が来店した。

出版・周年事業部/マーケティング営業部営業企画室・イベント事業室の武藤毅ゼネラルマネージャーは、「今回で第8弾となるアンテナショップは、新たなチャレンジとして、地元の多摩エリアを初めて飛び出して、東京・浅草での出店となった。外国人観光客が多い浅草の地で、インバウンドも視野に入れて、東京諸島の知名度をさらに高めることが狙い」と話す。また、今回は2025年10月の台風22号、23号の直撃で大きな被害を受け、現在も復旧活動が続いている八丈島、青ヶ島の復興支援のため、店内に特別コーナーを設けるとともに募金箱を設置し、義援金を募った。

松屋浅草1階の催事スペース「スペース・オブ・ア



初の浅草での出店となった「東京諸島アンテナショップ」。販売や客応対は、すべて社員が対応した。真ん中が武藤ゼネラルマネージャー

サクサ」に設けられた東京諸島アンテナショップでは、各島の特産品を幅広く取りそろえた。人気の塩辛やくさやといった珍味をはじめ、椿油やあしたば関連商品なども並び、来店者の関心を集めた。



島でしか手に入らない珍しい特産品が所狭しと並び



さらに、各島を代表する伊豆諸島の焼酎「GI東京島酒」が一堂に集結。伊豆の焼酎は地域の風土と結びついた特産品を保護する国の制度「GI（地理的表示）」の指定を2024年に国税庁から受けている。店内では、島で焼酎製造に携わった経験を持つ島酒アドバイザーが来店し、島酒の魅力やおすすめの楽しみ方を紹介。来店者は試飲を通じて好みの酒を選んでいた。

ショップの場所は、東京メトロ銀座線や東武スカイツリーラインの各駅に直結する好立地にあり、多くの人が足を止め、買い物を楽しむ姿が見られた。

▶ 印刷を超えて地域に寄り添う “ローカル・ゼブラ”

アンテナショップとの連動企画として、東京諸島パネル展を、雷門前の浅草文化観光センターで12月12日から23日まで開いた。このパネル展では、東京諸島の観光紹介とGI指定された「東京島酒」の焼酎の魅力をパネルで伝えた。島の文化としての島酒の成り立ちや発展、製法について紹介。インバウンド向け企画として、英語表記の展示も行った。武藤ゼネラルマネージャーは「海外でも焼酎は、日本酒と並んで人気がとても高まっている。島の焼酎製造会社も販路開拓を目指しており、外国人観光客にもGI東京島酒を広く知ってもらい、ファンを一人でも増やすことで来島につなげたい」と話す。

12月20日と21日は、伊豆

大島ワークショップも実施。大島産の生椿油と蜂蜜を練り込んだ石鹸づくりや、伊豆大島の椿の実や松ぼっくりを使ったクリスマスリースづくり体験を行った。

文伸は2020年より、東京諸島の特産品販売や情報発信を担う「東京諸島アンテナショップ」を運営してきた。この間、酒類販売業免許の取得なども行い、印刷会社の枠にとどまらないかたちで事業全体を支援している。

同事業は東京都商工会連合会の委託事業として、毎回、公募型プロポーザル（提案書）方式で事業者が選定されるが、文伸は確かな実績と信頼を背景に、独自の新たな企画を提案し続けることで、継続受託を果たしている。

武藤ゼネラルマネージャーは「東京諸島には豊かな自然や温泉など多くの魅力があるが、まだ十分に知られていない。アンテナショップで特産品を販売するだけでなく、島の文化や魅力をより多くの人に伝え、観光の活性化につながる支援を今後も続けていきたい」と語る。

文伸の取組みは一過性の支援にとどまらず、印刷の枠を超えて地域に寄り添う“ローカル・ゼブラ”のモデルケースとして、今後の展開が注目される。



11島の形を使ってデザインした「島」のロゴが入ったオリジナルバッグやTシャツも販売



浅草文化観光センターで行った「東京諸島パネル展」。英語表記でインバウンドにも対応